

ジャパン・グリーンボンド・アワード選定の理由

■ジャパン・グリーンイノベーション部門

国内のグリーンボンド市場を切り開いた先進的な取組が評価された。

＜選定理由＞

- **独立行政法人 住宅金融支援機構**: 住宅ローンを資金使途としているユニークな仕組みである。このような取り組みは、日本全国の住宅の省エネを推進していくものである。
- **日本郵船株式会社**: 海運業界として世界初のグリーンボンド発行であった。また、環境面の目標として SBT 認定を取得し二酸化炭素削減のロードマップを示し、バラスト水処理による生態系にも配慮した。
- **株式会社丸井グループ**: RE100 に加盟し事業活動に使う全エネルギーを 2030 年までに再エネ化する調達費用を資金使途とするなど、明確なコミットメントと高いグリーン性がみられた。

■ジャパン・グリーンインパクト部門

環境改善効果の評価、わかりやすい伝達への努力、情報開示、使途の多様性が評価された。

＜選定理由＞

- **小田急電鉄株式会社**: 個人投資家向けへの販売や車内広告で宣伝することによる普及啓発効果、及び、資金使途の新型電車の導入による大幅な CO₂ 削減効果がみられた。
- **株式会社三菱 UFJ フィナンシャル・グループ**: 建物の省エネは環境改善効果が高いが、その中でも厳しい基準を設定し、環境インパクトが大きい省エネビルに対する J-REIT 向けの融資に資金使途を限定している。

■ジャパン・グリーンインベストメント部門

国内のグリーンボンドへの投資実績を中心に評価された。

＜選定理由＞

- **日本生命保険相互会社**: 早くから高い目標投資額を掲げてグリーンボンドへの多額の投資を行ってきただけでなく、内外の環境関連会議に積極的に参加し、発行企業への働きかけを行うなど、経営層の全面的なコミットメントのもとに全社を挙げた環境への取組みがみられた。

■ジャパン・グリーンコントリビューター部門

グリーンボンド市場の発展に向けた取り組みが、量・質の両面から評価された。

＜選定理由＞

- **サステイナリティクス・ジャパン株式会社**: グリーンボンド発行に実質的に必要なセカンド・パートナー・オピニオンを数多く提供し、また、市場から信頼される基準にてグリーンボンドの適格性を判断した。
- **三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券株式会社**: 発行体として初、さらに業界としても初の発行が多く見られた 2018 年のグリーンボンド市場において、主幹事として圧倒的なシェアを占めて大きく貢献した。

■ジャパン・グリーンパイオニア部門

グリーンボンド市場発展の早い段階における市場拡大への貢献が評価された。

＜選定理由＞

- **戸田建設株式会社**: 資金使途が本業に関係した分かりやすい国内公募債の発行であり、2018 年の日本でのグリーンボンド躍進に多大な貢献があった。

■選定委員特別賞

ジャパン・グリーンボンド・アワード選定委員によって先駆的な取組みが評価された。

＜選定理由＞

- **株式会社栗本ホールディングス**: 世界的にも早い時期である 2013 年に、地方の中堅企業として再生エネルギープロジェクトに外部資金をつなげた先駆的な行動であった。